

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25221206	研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
研究課題名	ロイヤル・エピジェネティクス： 社会性昆虫の超長寿化の分子基盤	研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在)	松浦 健二（京都大学・大学院農 学研究科・教授）

【平成 28 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、シロアリやミツバチなどの社会性昆虫の超長寿化の分子基盤を明らかにするという非常に魅力的な研究である。</p> <p>これまでに、シロアリについてはカースト特異的な遺伝子発現や抗酸化システムを見いだし、その抗酸化物質が尿酸であることを特定するとともに、女王が有性生殖と単為生殖を切り替える際に卵表面の卵門が重要な役割を果たしていることを解明するなど、極めて重要な成果を上げている。なお、ゲノム解析には遅れが見られるが、研究は着実に進められており、ゲノム取得後は急速な研究の進展が期待できる。</p> <p>一方、ミツバチについてはクロマチン修飾とメチル化が超長寿化の要因として解明する研究が進められているが、技術的な困難さのために進展が遅く、今後の努力が期待される。</p>	